



絵表示、又は、シンボル	絵表示なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	<p><b>【予防策】</b>                      使用前に製品安全性データシート及び取扱い説明書を読むこと。                      スリップ防止のため床にこぼれた粉は取り除くこと。                      粉じんを吸い込まないように、マスクを使用すること。                      ゴム手袋、保護眼鏡等の個人用保護具を使用すること。                      粉塵爆発を起こす恐れがあるので確実に接地をし、導電性材料を用いるなど対策をとること。</p> <p><b>【対応】</b>                      吸入した場合はうがいをして新鮮な空気の中で休息させること。                      目に入った場合は多量の流水で洗眼除去すること。                      飲み込んだ場合は微温水を与え吐かせること。                      使用し気分が悪くなった場合は医師の診断・手当てを受けること。</p> <p><b>【保管】</b>                      水に溶解するので雨水等にかからないようにすること。                      吸湿してブロックになりやすいので高温多湿の場所は避けること。</p> <p><b>【廃棄】</b>                      廃棄する場合は国/都道府県/市町村の規則に従うこと。</p> <p><b>【一般注意】</b>                      本来の用途以外に使用しないこと                      粉塵爆発の可能性があるので</p>
他の危険有害性	

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	単一製品
化学名	ポリビニルアルコール メタノール 酢酸メチル
一般名	ポリビニルアルコール
別名	ポバール
化学特性	$  \begin{array}{c}  \text{--- (CH}_2\text{---CH) }_n\text{--- (CH}_2\text{---CH) }_m\text{---} \\  \quad \quad \quad   \qquad \qquad \quad   \\  \quad \quad \quad \text{OH} \qquad \qquad \quad \text{O} \\  \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \quad   \\  \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \quad \text{C=O} \\  \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \quad   \\  \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \quad \text{CH}_3  \end{array}  $
CAS 番号	9002-89-5 (完全けん化物)      25213-24-5 (部分けん化物)
成分及び濃度、又は濃度範囲 (含有量)	ポリビニルアルコール : 94.0%以上 メタノール : 1.0%未満 酢酸メチル : 1.0%未満
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	化審法 : 6-682 安衛法 : 6-682 TSCA : 登録あり

#### 4. 応急措置

吸入した場合	うがいをして新鮮な空気を吸うことが好ましい。
皮膚に付着した場合	粉末の状態、又は、水溶液の状態が付着した場合ともに水洗除去する。
目に入った場合	一般の異物が入った時と同様に洗眼除去する。
飲み込んだ場合	微温水を与えて吐かせる。

#### 5. 火災時の措置

消火剤	一般の火災同様、水、粉末消化剤、炭酸ガス消化剤を用いて消火する。
-----	----------------------------------

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・ 保護具及び緊急時措置	水がかかると糊状になり、滑りやすくなるため注意する。
環境に対する注意事項	漏出物を直接、河川や下水に流してはいけない。 廃水に混入した場合は、活性汚泥処理した後、放流する。
回収、中和、封じ込め、 及び、浄化の方法・機材	溶液 : 回収し活性汚泥にて処理した後に放流する。 粉末 : 飛散したものを掃き集めて、空容器に回収し、一般の塵 芥と同様に焼却する。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策	微粉末を含んでおり、溶解槽への仕込み時に粉塵が立つので、皮膚、及び、目を保護するために、ゴム手袋、及び、保護眼鏡等をつけることが好ましい。 大量に取り扱う場合には集塵装置を設置する。 また、静電気、火花を着火源として粉塵爆発を起こす危険性があるので、確実に接地を行い、導電性材料を用いる等の対策が必要である。
局所排気・全体排気 注意事項	取扱う場合は局所排気内、又は、全体換気のある場所で取扱う。 みだりに粉じんが発生しないように取扱う。
保管 保管条件 (技術的対策、 混触禁止物質等)	水に溶解するので、雨水等がかからないように保管する。 吸湿してブロックになりやすいので高温多湿の場所は避けて保管する。 3,000kg 以上の保管は消防法指定可燃物としての規制を受ける。

#### 8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	日本産業衛生学会 (1991 年度版) 「有機粉塵」として勧告されている許容濃度 <sup>1)</sup> 吸水性粉塵 : 2mg/m <sup>3</sup> 総粉塵 : 8mg/m <sup>3</sup>
設備対策	局所排気装置の設置が好ましい。

保護具	
呼吸器の保護具	防塵マスク
手の保護具	ゴム手袋
目の保護具	保護眼鏡

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状 色	固体 (粉末) 白色～淡黄色
融点	150～230℃ <sup>2)</sup>
引火点	70℃以上 (セタ密閉式)
爆発範囲	35g/m <sup>3</sup> (粉塵爆発の場合)
可燃性	少
比重 (相対密度)	1.19～1.31g/cm <sup>3</sup>
溶解度	
溶媒に対する溶解性	水に易溶
溶媒の溶解性	一般溶剤には不溶、又は、難溶
n-オクタノール水分配係数	データなし
自然発火温度	440℃ (層状)、520℃ (浮遊状態) <sup>6)</sup>
分解温度	100℃以上で徐々に劣化が起こり、200℃以上で劣化、又は、分解が顕著になる。 <sup>3)</sup>
その他のデータ	嵩密度 : 0.3～0.7g/cm <sup>3</sup> <sup>3)</sup> 比熱 : 1.68×10 <sup>3</sup> J/kg・℃ [0.4kcal/kg・℃] <sup>3)</sup> 燃焼熱 : 1.10×10 <sup>5</sup> J/mol [5.99×10 <sup>3</sup> kcal/kg] <sup>4)</sup>

## 10. 安定性及び反応性

安定性	きわめて安定
危険有害反応可能性	特になし
危険有害な分解生成物	特になし

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口ラット LD <sub>50</sub> 2,000mg/kg 超 <sup>7)</sup> 経皮ラット LD <sub>50</sub> 2,000mg/kg 超 <sup>7)</sup> 但し、上記 2 例共ラットの死亡例も異常も認められなかった。 <sup>7)</sup> ヒメダカ LC <sub>50</sub> 1,000mg/l 超 (完全けん化品 48 時間) <sup>8)</sup>
皮膚腐食性・刺激性	ウサギの皮膚にパッチテストを行ったところ、部分けん化品ではわずかに刺激が認められたが、完全けん化品では異常は認められなかった。 <sup>7)</sup>
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギの目に粉末を挿入したところ部分けん化品では異常は認められなかったが、完全けん化品ではわずかに刺激が認められた。 <sup>7)</sup>
呼吸器感作性、又は、皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	ハムスターの染色体テスト、及び、二十日ネズミの微細胞核テストより突然変異性は認められていない。 <sup>11)</sup> 細菌を用いる変異原性試験では陰性である。 <sup>12)</sup>
発がん性	過去のラットによる実験で見える限り、発ガン性があるとの結果は得られ

	ていない。 <sup>10)</sup>
生殖毒性	データなし
特定標的臓器・ 全身毒性 - 単回曝露	データなし
特定標的臓器 全身毒性 - 反復曝露	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし
その他	亜慢性毒性：5%のポリビニルアルコール水溶液（食塩濃度 0.9%）を 1ml、25 日間、毎日ラットに皮下投与したところ、高血圧症や腎臓、肝臓および心臓の肥大が認められた。 <sup>9)</sup>

## 12. 環境影響情報

生態毒性 魚毒性	データなし
残留性・分解性	シュードモナス菌を含有するスラッジによって生分解する。 <sup>13)</sup>
生体蓄積性	「濃縮性が無いまたは低いと判断される物質」に分類されている。 <sup>14)</sup>

## 13. 廃棄上の注意

粉末状として廃棄する場合は一般塵芥と同様に焼却する。  
水溶液として廃棄する場合は活性汚泥法により処理する。

## 14. 輸送上の注意

国際規制 国連番号	該当なし
安全対策 その他	雨水のかからないよう、ホロまたはシートをかける。
緊急時対応措置指針番号	該当なし

## 15. 適用法令

- 消防法：非危険物、但し、火災予防条例による指定可燃物（可燃性固体類）
- 労働安全衛生法：表示対象物質（メタノール、酢酸メチル）、通知対象物（メタノール、酢酸メチル）57条の2

## 16. その他の情報

- 引用文献
- 1) 日本産業衛生学会 産業医学 33, (7), 277~287 (1991)

- 2) Tubbs,R.K.,J.Polym.Sci.,A-1,4, 623～629 (1966)
- 3) Mark,H.F., Encyclopedia of Polymer Science and Technology,  
Vol.14, 159 (John Wiley & Sons,Inc.) (1971)
- 4) 大江、日化、1975 (10) 1813-18
- 5) 危険物保安技術協会 危険物等データベース登録 2075×005652 (1990)
- 6) 内藤他、産業安全研究所技術資料 P35 (労働省産業安全研究所) (1969)
- 7) 酢ビ・ポバール工業会資料 (1992)
- 8) 化学品検査協会編 化審法の既存化学物質安全性点検データ集 P6-1  
(日本化学物質安全・情報センター) (1992)
- 9) Hall,C.E.et.al., Am.J.Pathol., 41 (2) 247～257 (1962)
- 10) IARC Monographs on the Evaluation of the Carcinogenic Risk of  
Chemicals to Humans Vol.19, 357～359 (1979)
- 11) Sibuya,T.et.al., J.Toxicol.Sci., 10,135～141 (1991)
- 12) ポリオレフィン等衛生協議会「安全性セミナー」資料 (1991)
- 13) 鈴木、高分子 24, 384～389 (1975)
- 14) 通産省基礎産業局化学品安全課編 化学物質審査規制法実務提要 (第一法規)  
(通産省告示 昭和 54 年 12 月 20 日)

---

この製品安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用を目的としています。

本製品はこの製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取扱い下さい。

ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報や当社所有の知見によるものですが、これらのデータや評価はいかなる保証をするものではありません。

また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。